



古き良き時代から今へ

理事 岡崎 淳



社会福祉法人制度改革に備えて「法人本部機能を強化するべき。」と思い立ち、先ずは本部事務所の片付けに取りかかりました。しかし、積みり積もった書類の山はタイムカプセルの様で一々気になり手が止まります。懐かしい思い出もあれば、クレーム対応記録など苦い思いをした負の遺産も数々出てきます。大半は不要なものですが、この負の遺産は後々に役に立つだろうと思い保存することにしました。

その山の中に東京都三多摩地区保育連合会（以下 三保連）の記念誌を発見。東京都民間保育園協会（以下 当協会）が発足した年、50周年記念式典を最後に三保連は幕を下ろしました。最終年度には、会員数281園と拡大してきた三保連は、行政との折衝、運営研究・情報の提供、職員研修会など活発に活動し、東京や多摩地区の保育水準の向上に努めてきました。式典の祝辞において、石川要三先生（元衆議院議員）が、父である初代会長の岩波光二郎先生のエピソードをお話しされました。「父は、得意なパチンコで大当たりするとキャラメルや飴玉の景品が手に入る。それを保育園に持って行き園児に呉れて喜ぶ顔を見るのが楽しみだった。」時代のギャップはありますが、温かみのある古き良き時代が目に見え、昔の先生の間味のある人柄を感じました。三保連は、人々との繋がりが深く人情のある組織でした。この会の終わりに関わり、先輩方の夢や情熱を知ることができました。振り返れば、多くの先輩方には随分と助けられた思いがします。

団体が統一されるまでには、様々な問題があり多大な時間と労力が費やされ、三保連が解散し東京の四つの保育団体が一つとなり当協会が発足しました。保育団体は、直接子どもたちや保護者との関係は少ないですが、保育園と社会をつなぐ役割を担っているものです。そして、考え方や保育内容、地域も様々ですが、子どもの権利尊重という同じ目的に向い、子どもたちのために大きな力となっているのだと思います。

先日、公園で子どもたちがサッカーをしていたところ、公園管理の方に「ボールを使わないように。」と注意を受けました。この公園にも、いつの間にか看板が設置され「ボール遊び禁止！」と書かれているではないですか。その経緯や根拠を聞きましたが「元々なので分かりません。他者へ迷惑のかかる行為は禁止なんです。近所からも言われています。お年寄りのターゲットゴルフやゲートボールは健康増進なので認めています。」どうにも納得しがたい説明で、公園で子どもたちが静かにしていることが地域のためかのようなニュアンスで切り捨てられてしまいました。

迷惑の尺度は人様々ですが、誰でも迷惑をかけずには生きられません。その関係がコミュニティの始まりだと思います。子どもが育つ環境が奪われ、子どもの育ちを阻害され、子どもの人権が侵害されていく。何か事が起きる度に禁止が増えていく風潮に違和感を感じています。昔と今では何が変わったのでしょうか、当協会の中でも考えていきたいところです。

また、子どもやお年寄りなど誰もが集える環境、地域、そして、お互いに譲り合える明るい社会をどう築いていくのか。行政や地域では行き届かないその担いが“社会福祉法人の地域社会への貢献”なのかもしれません。